第2章 プロスポーツ界の現状

プロになる方法・条件

相撲

各部屋の師匠を通して「新弟子検査」を受ける。検査は各場所ごとに行われ、検査に合格すると(財)日本相撲協会に力士として登録され、その後、各部屋へ配属される。協会に登録された段階でプロとなる。力士の養成は各部屋単位で行われる。

登録資格

「新弟子検査」を受けられる者は以下の通り。

・義務教育を終了した23歳未満の男子
・身長167cm以上(3月場所前の検査で中学卒業見込みの受検者に限って165cm以上)、体重67kg以上の者

※但し、年齢25歳未満の義務教育を修了した者で、対象となる大会において一定の成績を収めた者は、身長、体重の制限なしに「幕下十枚目格」もしくは「幕下十五枚目格」として初土俵を踏むことができる。その場合でも「第一検査(内臓検査のみ)」を受けることは義務付けられている。

検査時期

各本場所前

検査手続

戸籍謄本または戸籍抄本 健康診断書 親権者の承諾書に、中学生は卒業見込み証明書を添え(3月場所のみ)、入門を希望する部屋の師匠を経て力士検査届を協会に提出する。

検査内容

・体格検査(身長・体重)
・内臓検査

「新弟子検査」合格後

検査に合格すると、(財)日本相撲協会に力士として登録され、そこから各部屋に配属される。協会に登録された段階で力士養成員として認められる。力士の養成は各部屋単位で行われる。

相撲教習所の教育科目

新弟子は新弟子検査を受けた本場所から前相撲に臨む。前相撲では定められた勝ち星をあげた力士から順に新序(新しい序ノ口)として認められ、翌場所は序ノ口として相撲人生の第一歩を踏み出すとともに相撲教習所に通う。

・教習期間／入門後6ヵ月
・教習科目／実技(四股、鉄砲等相撲の基本)
　　学科(相撲史、運動医学、社会、書道、相撲甚句、修業心得)

野球

ドラフト指名により入団する。

新人選手について

新人選手はドラフトでの指名を経た後、各球団と契約できる。新人選手とは、日本の中学、高校、大学に在学中もしくは在学経験がある者、また日本での在学経験がなくとも日本国籍を持つ者で、これまでいずれの球団とも入団契約を締結したことのない者をさす。2008年から、3年の間分割して行っていたドラフト会議を一括で開催することになった。

《ドラフト制度》

各球団の戦力均衡と高騰する新人選手への契約金の抑制を目的とする。'93年から、1位、2位指名選手に限っては、入団希望の意志を尊重する主旨の制度が導入され、2001年度からは、さらにそれが変更され、ドラフト以前に各球団が最多2名まで自由に獲得できる制度になった(但し高校生は除く)。

2005年度、2006年度は、日本高等学校野球連盟に所属している選手を選択の対象とする「高校生選択会議」と、日本高等学校野球連盟に所属していない選手を選択の対象とする「大学生･社会人ほか選択会議」に分けて行った。大学生･社会人ほか選択会議以前に、1名の新人選手を希望入団枠獲得選手として獲得することができた(高校生は対象から除外)。

ドラフトの時期

10月末

12球団合計のドラフト可能人数

120名まで。

ドラフトの手順

1巡目の指名は、「入札抽選」により行い、2巡目以降の指名は「球団順位の逆順」で行い、3巡目の指名はその逆順、以後交互に折り返しで指名する。

※「球団順位の逆順」=その年度のセ・パ公式戦の球団順位に基づき、優先権を獲得したリーグの最下位球団を第1順位、他方のリーグの最下位球団を第2順位、優先権を獲得したリーグの5位球団を第3順位とし、以下、同様にして定まる順番。

ドラフト指名を受けた後

指名球団との交渉がまとまった選手は「統一契約書」にサインし、プロ選手となる。

チーム保有選手(70名以内)

出場登録選手／28名以内
その他の登録選手／42名以内

(2014年は未定)

男子ゴルフ PGA

プレ予選から最終プロテストに至るＰＧＡ資格認定プロテストに合格した者は、トーナメントプレーヤー会員(トーナメントプロ)としてＰＧＡに登録される。プロテストでは、ゴルフ場や練習場研修会から推薦された者やアマの競技実績でトップ級の実力者等に対し、プレ、第一次、二次免除が段階的に適用される。

プロテスト	受験資格	
プレ予選 各会場の成績上位者が第一次プロテストへ進出(人数は会場で発表)	1. JGAハンディキャップ3.0以内の者 2. 日本人でR&A、USGAのハンディキャップ3以内の者 3. 日本国内の高校または大学のゴルフ部在籍経験者 4. 各地区の連盟に加盟していないゴルフ場または練習場に所属している研修生 5.研修会推薦による出場資格を得られなかった研修生、または各地区予選等(西日本)で資格を得られなかった研修生 6. 過去にアマチュア競技成績の受験資格でプロテストを受験した者 7. PGAティーチングプロ 8. 2011年度最終プロテスト出場者 9. 他国のPGAライセンス取得者	競技方法 36ホールストロークプレー(各18ホール) 通過基準 36ホール終了時点で各会場上位者が第一次プロテストへ進出する
第一次プロテスト 各会場の成績上位者が第二次プロテストへ進出(人数は会場で発表)	1. プレ予選通過者 2. 研修会の第一次推薦に該当する者・PGAティーチングプロ選考会による資格取得者 3. アマチュア競技成績の該当者 (1)日本学生ゴルフ選手権　4位～10位 (2)日本アマゴルフ選手権　4位～10位 (3)全日本パブリックアマ選手権　4位～10位 (4)朝日杯争奪全日本学生ゴルフ選手権　2位～10位 (5)文部大臣杯争奪全日本学生王座決定戦　ベスト8(優勝者を除く) (6)日本ジュニア選手権　1位～10位 (7)全日本高等学校ゴルフ選手権　1位～10位	競技方法 36ホールストロークプレー(各18ホール)
第二次プロテスト 各会場の成績上位者が最終プロテストへ進出(人数は会場で発表)	1. 第一次プロテスト通過者 2. 研修会の第二次推薦に該当する研修生・PGAティーチングプロ選考会による資格取得者及び下記競技成績該当者 (1) 全日本ゴルフ選抜大会春季大会　上位3名 (2) 全日本ゴルフ選抜大会秋季大会　上位3名 3. アマチュア競技成績の該当者 (1) 日本学生ゴルフ選手権　2位～3位 (2) 日本アマゴルフ選手権　2位～3位 (3) 日本オープンゴルフ選手権　ローアマチュアを除く決勝ラウンド進出者 (4) 全日本パブリックアマ選手権　1位～3位 (5) 朝日杯争奪全日本学生ゴルフ選手権　優勝者 (6) 文部大臣杯争奪全日本学生王座決定戦　優勝者 (7) 各地区学生連盟ゴルフ選手権　優勝者 (8) 各地区連盟アマゴルフ選手権　優勝者	競技方法 54ホールストロークプレー(各18ホール)
最終プロテスト 50位タイまでの者が合格	1. 第二次プロテスト通過者 2. 研修会の最終プロテスト推薦に該当する研修生・PGAティーチングプロ選考会による資格取得者及び下記競技成績該当者 3. アマチュア競技成績の該当者 (1) 日本学生ゴルフ選手権　優勝者 (2) 日本アマゴルフ選手権　優勝者 (3) 日本オープンゴルフ選手権　ローアマチュア 4. その他ＰＧＡが承認した者	競技方法 72ホールストロークプレー(各18ホール)

合格者入会セミナー

PGAトーナメントプレーヤー資格認定

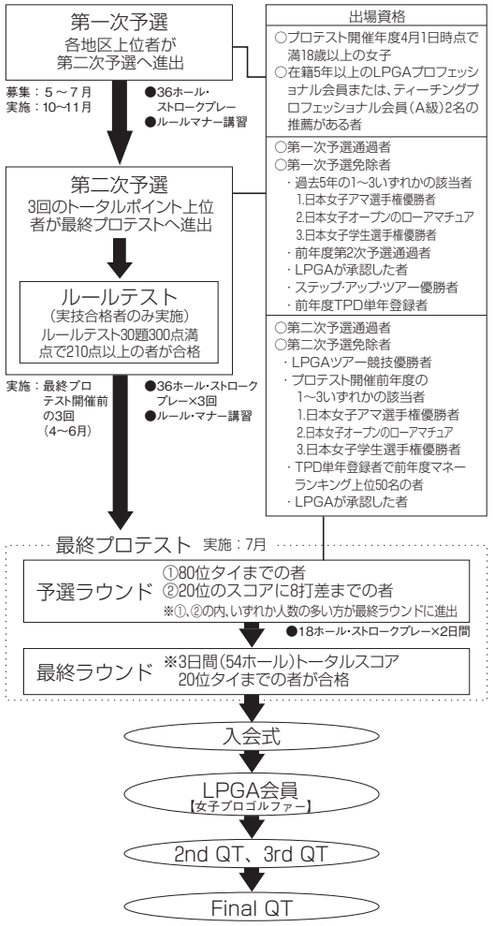
プロになる方法・条件

女子ゴルフ

プロテストを受験するためにはLPGA在籍5年以上の会員2名の推薦が必要。第一次･第二次予選の合格者及び、日本女子アマチュア選手権優勝者や日本女子学生選手権の優勝者、日本女子オープンローウェストアマ、LPGAが承認した者がプロテストを受けられる。最終プロテストに合格した後、入会式を経て正式にLPGA会員としてライセンスが与えられる。

トーナメントプロになる方法

下記の表の要項に沿い、LPGA最終プロテストに合格した者がLPGA会員となる。その後、クォリファイングトーナメント（QT）を経てツアー出場権を獲得し、トーナメントプロとなる。

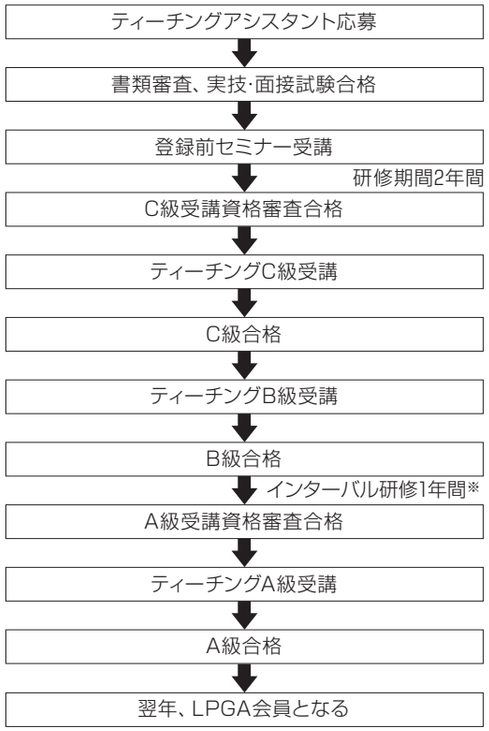


入会手続きをもって女子プロゴルファーのライセンスが与えられるが、トーナメントに出場するにはFinal QTで上位に入らなければならない。
※合格者(第1位の者は除く)は、その年度の日本女子プロ選手権で、運営スタッフとして活動を行う。
〈入会日〉
最終プロテスト最終日翌日。
※プロテスト合格者第1位の者には、プロテストが終了した日の翌週より、その年度のLPGAツアー出場資格を与える。

ティーチングプロになる方法

健全なゴルファーの育成、ゴルフ技術、ルール及びマナーを研究錬磨し、その指導普及を図るためのゴルフ指導者の資質向上及び資格認定を行うことを決め「インストラクター資格認定制度」を発足し、人材育成に取り組んでいる。資格認定制度は【ティーチングアシスタント⇒C級⇒B級⇒A級】の4段階に分かれ、まずティーチングアシスタント資格を取得するために所定の審査に合格し、且つ所定の講習会を修了しなければならない。また、上記制度の他にプロ会員には、新人セミナーを修了した際に、LPGAインストラクター資格を付与している。

■資格取得の経緯



上記の経緯は最短である。C級取得後10年以内に、A級講習会受講を終了しなければならない。

サッカー

各クラブチームごとに選手採用のためのテストは実施しているが、現状ではスカウトされて加入するケースが多い。

日本サッカー協会のチーム登録カテゴリー

日本サッカー協会傘下の組織は、以下の6つに分かれている。
・第1種(年齢制限なし)
・第2種(18歳未満)　・第3種(15歳未満)
・第4種(12歳未満)　・女子　・シニア(40歳以上)

選手登録の規定

・プロ契約可能年齢は16歳以上。
・Jリーグ各チームのプロ選手登録は20人以上(J2は5人以上)。

高校、大学からJリーグへ

現在、Jリーグの選手で多いのは、高校時代に「高校選手権」に出場して活躍した選手。選手は卒業後、直接Jリーグのチームに入るか、大学チームを経てJリーグ入りする。またサッカーの無名高校の出身でも、大学やクラブの育成組織で活躍し、実力を認められてJリーグ入りした例も多い。

クラブチームからJリーグへ

Jリーグクラブ傘下のジュニアチームで小学低学年から一貫した指導を受けて段階的に上がり、Jリーグに入る選手も最近では増えている。ジュニアチームの選手募集は主に12月~2月頃。ボールリフティング、50m走、ゲームなどによるセレクションがある。

プロ資格の取得方法

日本サッカー協会の登録区分は「アマチュア」と「プロ」に分かれる。

2013年度Jリーグ新人研修会
●開催日・場所　2013年2月1日~3日/つま恋(静岡県)
●研修内容
・Jリーグのビジョン
・Jクラブのビジネス
・ルールテスト・フェアプレー
・アンチドーピング
・PRコミュニケーション
・選手とソーシャルメディア
・リスクマネジメント
・講話
・反社会勢力への対応&八百長について
・toto(スポーツ振興くじについて)
・税金の基礎知識
・OB講話

〈選手の社会貢献活動〉
Jリーグでは、2003年度から選手による社会貢献活動が義務化されている(Jリーグ規約第21条および第87条)。養護施設の子どもたちの公式試合への招待、子どもたちや親子を対象にしたサッカー教室への参加、学校での訪問授業、福祉施設や病院の慰問、地域の行事への参加、地域の美化(清掃)活動、チャリティーへの協力、募金活動、行政機関によるキャンペーン活動への協力など、それぞれの地域でさまざまな活動が行なわれている。選手たちがこうした社会貢献活動に取り組むことにより、Jクラブがホームタウンで行なっているスポーツ振興活動は助長され、また、選手の社会的地位が向上すると期待されている。

プロになる方法・条件

ボクシング

プロボクサーとなるためには、ボクシングジムに入門し、およそ6ヵ月程度指導を受けた後、プロテストを受験。合格すれば所定の手続きを取った後、ライセンスを取得できる。

〈プロテスト〉

受験資格

17歳～32歳で、技術が一定のレベルに達しているとジムが判断した者

受験時期

毎月1～2回実施

試験内容

・筆記（ボクシングの基礎、ルール等基本的質問）
・実技（スパーリング1～2ラウンド）
・身体検査（CTスキャナーテスト等。事前に健康診断書提出）

〈プロライセンス〉

取得条件

プロテストに合格し、かつコミッションドクターの身体検査(CTスキャナーテストを含む)に合格していること

年齢制限

満17歳～満37歳（新人ボクサーに交付される場合は33歳未満であること）

必要書類

コミッション所定の申込用紙、戸籍抄本、居住証明書、未成年者は親権者の承諾書、その他参考書類（アマから転向する場合はアマ時代の戦績を証明するもの、外国人の場合は外国人登録証等）

提出方法

書類及びライセンス料を本人がコミッションに持参し提出（有効期限1年間）

ライセンス取得後

プロテスト合格後、C級ライセンスを取得して4回戦の試合でデビューする。
10回戦の試合に出るにはA級ライセンスが必要。

ボウリング

プロボウラー志望者は「資格取得テスト」を受験しなければならない。それに合格したものに対し、協会正会員の資格が与えられプロ選手となる。

「資格取得テスト」の受験資格

・満 16歳以上（2013年4月8日現在）の男女とする。但し、在籍5年以上（2013年 1 月 1 日現在＝男子46期・女子40期以前）のプロボウラー2名の推薦を必要とする。推薦条件としては、前年度30ゲーム以上で、男子190アベレージ、女子180アベレージ以上を有すると認められた者とする。
・協会公認オープントーナメント（特殊トーナメントは除く）に於て総合10位以内、もしくは各ボウリング団体主催の全国レベルのトーナメントで優勝等、過去（原則として3年間有効）に著しい成績を持つ受験生に関しては、資格審査委員会で審議し理事会が承認した者に限り、第一次テストもしくは第一次・第二次テスト実技を免除することが出来る。（免除願いの申請書を協会事務局に提出の事）

【受験資格を得られない者】
・居住権のない外国人。
・日本語（文）を理解できない外国人。
・暴力団等の組織の構成員及び準構成員。
・競技者並びに観客等に対し、不快感を与えるような入墨を施している者。
・協会より過去に除名処分を受けた者。（ただし理事会にて除名を解除された者は除く）
※合格後、上記の事実が判明した場合は、定款第3章、第9条及び第11条の規定により除名となる。

申請書受付時期（平成25年実施要項）

3月4日～3月21日

試験内容

第1次テスト（実技）
ゲームテスト
4月9日(火)～4月12日(金) 4日間（東西別に実施）
男子は1日15ゲーム、計60ゲームで200アベレージ以上、女子は1日12ゲーム、計48ゲームで190アベレージ以上を合格とする。
但し、1日目及び2日目の合計で、男子は30ゲームのアベレージが190（5700ピン）、女子は24ゲームのアベレージが180（4320ピン）に満たない者は、3日目以降の受験資格を失うものとする。

第2次テスト（実技）
ゲームテスト
4月23日(火)・4月24日(水)・5月13日(月)・5月14日(火)
（全員合同で東西各2日間実施）
男子は1日15ゲーム、計60ゲームで200アベレージ以上、女子は1日12ゲーム、計48ゲームで190アベレージ以上を合格とする。

※第2次テストは、第1次テストのトータルピンは持ち越さない。

※第2次テスト不合格者に対する特別規定
第2次テスト受験者のうち、第1次テストから全ゲームを完投したものの合格の条件に満たなかった不合格者に対しては、翌年に実施される第1次テストに限り、これを免除するものとする。

※第3次テスト不合格者に対する特別規定
第3次テスト受験者のうち、合格の条件に満たなかった不合格者に対しては、翌年に実施される第1次・第2次テストに限り、これを免除するものとする。（受験料1万円）

受験料

・10万円（第1次テスト免除者は7万円）

実技テスト合格後

第3次テスト（筆記・面接）及び入会講習会を経て合格者は協会正会員（協会公認プロボウラー）の資格が与えられる。

テスト合格後の研修

公認C級インストラクター研修会を受講する。インストラクター部の主催により、公認インストラクター講習会はじめ、各種専門講習会が実施される。

プロになる方法・条件

ダンス

プロのダンサーには、2つの種類がある。プロ競技選手とプロ教師（インストラクター）である。プロ競技選手には、各級があり、上からABCDの4つに分けられる。プロ競技選手になるためには、N級の競技会に出場し、約10%以内に入賞すると、D級を取得でき、選手登録することが出来る。プロ教師になるためには、教師試験を受験し、合格しなければならない。試験は、一般常識問題、ダンスの理論、実技などである。実技は1人で踊るものと、2人で踊るものと、両方出来なければならない。

● （公社）全日本ダンス協会連合会認定　ダンス教師（アソシエイト）

受験資格

・年齢18歳以上
・ダンス教授所で60時間以上研修を受けた者

考査内容

・筆記試験　ダンスの理論と知識
　一般常識
　法規
・実技試験　リーディング及びフォローイング
　ソロデモンストレーション
　以上、スタンダード4種目（W·F·Q·T）とラテン4種目（R·C·S·P）について実施する。

合格基準

・筆記試験・実技試験共に70%以上。どちらかが70%未満の場合、片方のみの再試験可。

講習・考査の実施

・毎年2回。本部又は全国を10ブロックに分けた全ダ連の地域会ごとに実施。資格認定時に交付される「ダンス教師資格証明書」は5年に1度の更新が義務付けられている。

アソシエイトを基礎資格として、昇級試験により習得できる資格にメンバー・ライセンシエイト・フェローがある。

フォーミュラ・カーレース

フォーミュラ・ニッポンのドライバーになるには、所属するASN（各国の自動車連盟）によって発給された国際ライセンス（国際競技運転者許可証B以上）を所持し、フォーミュラ・ニッポンに参加するチームと契約を交わすことが必要。

ドライバーライセンス取得の流れ

国内Bライセンス講習会の受講
↓
国内Bライセンス（レースを除く国内競技に有効）
↓
公認競技に1回出場
↓
国内Aライセンス講習会にて合格
（実技をともなう講習でテストに合格すること）
↓
国内Aライセンス（すべての国内競技に有効）

↓ 申請前12ヵ月以内に下記のいずれかの競技出場実績者で、かつこれらの実績者は、そのつど競技長によって成績認定された者で、運転者の「競技記録カード」（JAF所定）に証印を得た者。
1.JAF公認レースに少なくとも2回以上完走（順位認定を受ける）した者。
2.JAF公認のラリーおよびスピード行事の日本選手権競技に6回以上完走（順位認定を受ける）した者。
ただし、競技出場実績者は、レースとラリーおよびスピード行事が混在する場合、ラリーおよびスピード行事の合計の3回をもってレース1回と計算する。

↓
国際C
↓
申請前24ヵ月以内に、日本選手権レースまたは国際格式のレースに5回完走（順位認定を受ける）し、かつそのつど競技長によって成績認定された者で、運転者の「競技記録カード」（JAF所定）に証印を必要とする。

↓ 申請前24ヵ月以内に、日本選手権レースにおいて5回完走（順位認定を受ける）し、かつそのつど競技長によって成績認定された者で、運転者の「競技記録カード」（JAF所定）に証印を必要とする。

↓
国際B

〈国内Bライセンスの取得（レースを除く国内競技に有効）〉

取得条件

・有効な普通自動車以上の運転免許証か、外国のこれに相当する運転免許証の所持者であること（ただし、18才以上）。
・JAFの会員であること。
・以下のいずれかの条件を満たすことで取得できる。
　・講習会の受講
　・クローズド競技会の出場証明
　・登録クラブからの推薦
　※公認競技会（ラリーまたはスピード行事）に1回以上出場した証明を得る。

〈国内Aライセンスの取得（全ての国内競技に有効）〉

取得条件

・国内Bライセンス取得者
・実技を伴う講習会でテストに合格すること
　・国内Aライセンスを取得しレースの実績を積んでゆくと、国際ライセンスへステップアップすることができる。
　国際ドライバーライセンス（A·B·C）には講習会は無く、すべてイベントの出場回数や実績（成績）を重ねて取得することになる。

〈国際Bライセンスの取得〉

取得条件

・国内A所持者もしくは国際C所持者
・以下のいずれかの条件を満たすことで取得できる
　・国際Bライセンス申請前24ヵ月以内にJAFの日本選手権（地方選手権を含む）レースにおいて5回以上順位認定を受ける、かつそのつど競技長によって成績認定されたもので、運転者の「競技記録カード」（JAF所定）に証印を必要とする。

プロになる方法・条件

中央競馬

中央競馬の騎手になるためには、騎手免許試験に合格し、免許を取得しなければならないが、そのほとんどが、競馬学校（千葉県白井市）騎手課程に入学し、3年間の教育訓練を受け卒業した者である。

受験資格（※乗馬経験は不問）

・中学校卒業見込及び中学校卒業以上の学歴を有すると認められる20歳未満の者（平成25年4月1日現在の年齢）
・年齢区分により定められた体重以下の者（6区分・44.0kg～46.5kg）
・視力は裸眼で左右とも0.8以上の者
・色別力・聴力・その他健康状態において、業務を行うのに支障がないこと
・乗馬経験は問わない

募集時期

6月25日（月）～7月30日（月）（平成25年度募集の場合）

募集人員

15名以内

試験内容

第1次試験
・筆記試験（国語、社会）、本人面接
・身体検査
・運動機能検査　他
第2次試験（第1次試験合格者が受験）
・健康診断
・運動機能検査
・騎乗適性検査
・厩舎作業審査
・面接（本人及び保護者）　他

養成期間

3年間

教育内容

・実技（飼養管理、基本馬術、トレーニングセンター厩舎実習、走路騎乗、模擬レース）
・学科（一般教科、馬学、馬術、関係法規・競馬のしくみ等）

競馬学校卒業後

第3学年（実践課程）在学中、日本中央競馬会が実施する騎手免許試験を受験し、合格した者が免許を取得。中央競馬に騎乗できる資格が与えられる。

地方競馬

地方競馬の騎手になるには、地方競馬全国協会が行う騎手免許試験に合格しなければならない。「地方競馬教養センター」に入所し、２年間の養成訓練を受けて受験するケースが多い。

受験資格

・中学校卒業見込み及び中学校卒業以上の学歴を有する15歳～20歳の者（4月1日現在の年齢）
・視力は裸眼で左右とも0.6以上の者
・体重　15歳／44kg以下　16歳／45kg以下
　　17歳～20歳／46kg以下
・色別力、聴力、その他健康状況において、業務を行うのに支障がない者
・乗馬経験は問わない

募集時期

年1回
4月入所生

募集人員

（平成25年度）
4月入所生＝15名以内

試験内容

・筆記試験（国語、数学、社会等）
・身体計測（身長、体重、視力等）
・運動機能検査（垂直跳び、背筋力、1,500m走等）
・面接

養成期間

2年間

教育内容

・実技（飼養管理、基本馬術、障害飛越、競走馬術、模擬レース、競馬場実習等）
・学科（法規、馬術、馬学等の専門教科、一般教科、剣道、体育、英会話他）

養成課程修了後

騎手免許を取得した者は、地方競馬で騎乗できる資格が与えられ、本人が所属する主催者の競馬場で主に騎乗することとなる。

騎手免許取得後の研修

・騎手訓練＝地方競馬教養センターでの騎手課程を経ずに、新たに騎手免許を取得した者及び特に訓練が必要と認められる者等を対象に、騎乗技術や馬学等の競馬関連の研修及びスポーツ心理、栄養学、生活設計等の研修を実施。
・新人騎手研修講座＝地方競馬教養センターでの騎手課程を経て騎手免許を取得してから概ね2年を経過した者を対象に、競馬関連の研修及び生活設計、スポーツ心理、精神訓話等の研修を実施。

プロになる方法・条件

競 輪

選手になるためには、選手資格検定に合格し、公益財団法人JKAに登録されなければならない。選手を養成するための機関として日本競輪学校がある。入学するには自転車競技経験がある「技能組」と経験のない「適性組」及び「特別選抜」の3つの方法がある。訓練期間は約1年である。

日本競輪学校の受験資格

［技能・適性組］
- 高等学校卒業または同程度の学力を有する者で日本国内に居住する男女
- 満17歳以上

［特別選抜］
- 高等学校卒業または同程度の学力を有する者で日本国内に居住する男女
- 満17歳以上
- 自転車競技又はその他のスポーツ競技に関する世界規模の大会又はそれに準ずる大会において、優秀な成績を収めた者。大会及び成績の基準は公益財団法人JKAが定める。
- 世界自転車競技センターにおけるトラック競技のトレーニングに6ヶ月以上参加した者であって、公益財団法人JKAが認める者。

募集時期

男女各年1回
特別選抜は別途定める

募集人員

男子 36名程度（2013年度）
女子 20名程度
ただし［特別選抜］は若干名

試験内容

第1次試験
［技能組］自転車による 200m、1,000mの走行時間
［適性組］垂直跳、背筋力
第2次試験
［特別選抜］身体検査、及び人物考査

養成期間

約1年間

教育内容
- 実技（基礎実技訓練、競走実技訓練、運動機能総合測定等）
- 学科（競輪関係諸法規、スポーツ医学、体育理論、自転車の構造･機能、一般教養）
- 特別教育活動（学校行事等）

日本競輪学校卒業後

公益財団法人JKAが行う選手資格検定試験に合格した者は、選手として登録される。

新登録選手になってからの研修

選手登録後3年未満の新人選手を対象に、指導者との共同生活（合宿訓練）を通じて社会道徳および競輪選手としての職業倫理の修得に努めるとともに、事故の未然防止を図ることを目的に研修を実施している。

●研修内容
- 教養講座／競輪界の現況、選手管理、プロ競技者としての心構え、プロの要件、税務申告、一般社会情勢など
- 技能講座／競技力向上のための技能訓練
- 課外研修／文化教養、ボランティア活動他
- 分科会／金銭管理、選手生活、ファン気質、競走参加の心構えなど

ボートレース

ボートレーサーとなるには、日本モーターボート競走会・やまと学校に入学し、１年訓練を受ける。卒業時に登録試験を受け、合格すると卒業ライセンスが取得できる。卒業後、モーターボート競走会に登録され、プロ選手となる。

受験資格

年　齢：15歳以上30歳未満
学　歴：入学日において中学校を卒業していること
身　長：175㎝以下
体　重：男子47.0kg以上～57.0kg以下
　　女子42.0kg以上～50.0kg以下
視　力：裸眼で両眼とも0.8以上
弁色力：強度の色弱でないことなど

※特別試験枠有
（モータースポーツその他スポーツ競技に関する世界規模の大会等にて優秀な成績を収めた者）
※スポーツ推薦試験制度有
（国内スポーツ競技大会等にて優秀な者他）

募集時期

2～4月、8～10月（年2回）

募集人員

各回30～40名程度

試験内容

第１次試験
- 体力試験 ※特別試験枠免除
- 学科試験（国語、社会、理科、数学）

第２次試験
- 適性試験
- 体力試験 ※特別試験枠免除

第３次試験
- 人物試験
- 身体検査
- 適性検査

養成期間

１年

教育内容
- 実技（操縦実技、整備実技等）
- 学科（関係法規、内燃機関、操縦学、整備学）
- その他

養成期間修了後

卒業試験　選手資格検定試験を受験し、合格者は日本モーターボート競走会にB2級として選手登録される。

選手資格登録後の研修・訓練

業務指導をベースに、新しい知識の付与、一般社会情勢の理解、業務検討等に焦点をあて、新人選手、一般選手に対して研修・訓練を実施。

●研修内容

＜選手定期訓練＞
選手として必要な知識、技量及び体力の向上を図ることを目的に実施
- 一般教養
- 業務指導
- 精神訓話
- 教養講座
- 一般社会情勢など

＜新人定期訓練＞
登録2年未満の新人選手に対して、技量の向上及び競技運営全般を精通させるために、年間１回参加を義務付けて実施
- 操縦
- 整備
- 業務指導（個人面談を含む）など

プロになる方法・条件

オートレース

選手となるためには、「オートレース選手養成所」に入所する必要がある。
オートレース選手養成所に入所し、9ヵ月の訓練を受ける。選手養成所卒業後、公益財団法人JKAに登録され、プロ選手となる。

入所試験受験資格
・満16歳以上
・運転免許証を有する者（原付も可）
・体重60kg以下の者
・両眼とも裸眼視力0.6以上で色神異常でない者
・成年被後見人、又は被保佐人でない者
・公営競技関係法規の規定に違反し、罰金以上の刑に処せられた者でない者
・禁固以上の刑に処せられた者でない者
・小型自動車競走の選手であって、登録を削除された者でない者

（応募資格の特例及び試験の一部免除）
指定期間においてFIM公認のロードレース等の二輪競技出場者又はMFJ公認のロードレース等の二輪競技において年間ランキングが上位にランクされた者、又はスポーツ競技において優秀な成績を収めた者については、次の通りとなる。
・体重65kg以下
・第1次試験の適性検査試験の一部免除
・第1次試験の受験料免除
※詳細はオフィシャルHP

募集時期
現在のところ未定

募集人員
各回20名程度

試験内容
第1次試験
・適性検査
第2次試験
・面接
・身体精密検査（脳波、心電図、視力等）
・体力検査
・技能検査
・人格・素行検査

養成期間
9ヵ月（各レース場での実地訓練を含む）

教育内容
・競走車の操縦実技（基本操縦、応用操縦、模擬レース）
・競走車の整備実技（競走車の特性及び構造等）
・学科（オートレースの概要、小型自動車競走法並びに関係諸法規他）
・その他（体育、武道、オートレース場の見学）

所定の教育課程の修了認定後
選手資格検定を受験し、合格すると登録されプロ選手となる。

オートレース選手登録後のプロとしての研修
登録選手全員を対象に公営競技の選手として、必要な教養を高めるとともに併せてプロ精神の向上を図ることを目的として、年1回、各場で訓練を実施している。

※上記は第32期募集時の内容で、変更の可能性があります。

キックボクシング

新日本キックボクシング協会所属のプロキックボクサーになるためには、協会に加盟するジムに入門し、指導を受けなければならない。プロのレベルに達したと判断された時点で、プロテスト（筆記及び実技）を受験。それに合格し、所定の手続きを完了すればライセンスを取得できる。

〈プロテスト〉

受験資格
・16～37才
・技術が一定レベルに達しているとジムが判断した者

受験時期
・毎月1回実施

試験内容
・筆記　キックボクシングの基礎・ルール等
　　基本的質問
・実技　スパーリング1～2ラウンド
・身体検査　CTスキャナーテスト等。
　　事前に健康診断書提出。

〈プロライセンス〉

取得条件
プロテストに合格し、かつコミッションドクターの身体検査（CTスキャナーテスト含む）に合格していること。

必要書類
新日本キックボクシング協会本部所定の申込用紙、戸籍抄本、住居証明書、未成年者は親権者の承諾書、その他参考書類（アマから転向する場合はアマ時代の戦績を証明するもの、外国人の場合は外国人登録証等）

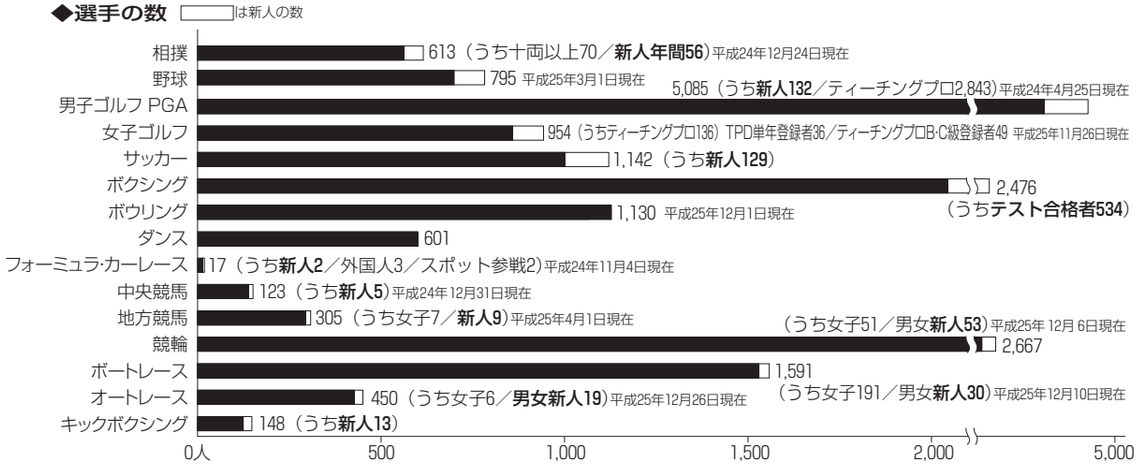
提出方法
上記一件書類、申請料、傷害保険料を提出。

ライセンス取得後
プロテスト合格後、B級ライセンスを取得して2回戦の試合でデビューする。
3回戦の試合に出るにはA級ライセンスが必要。

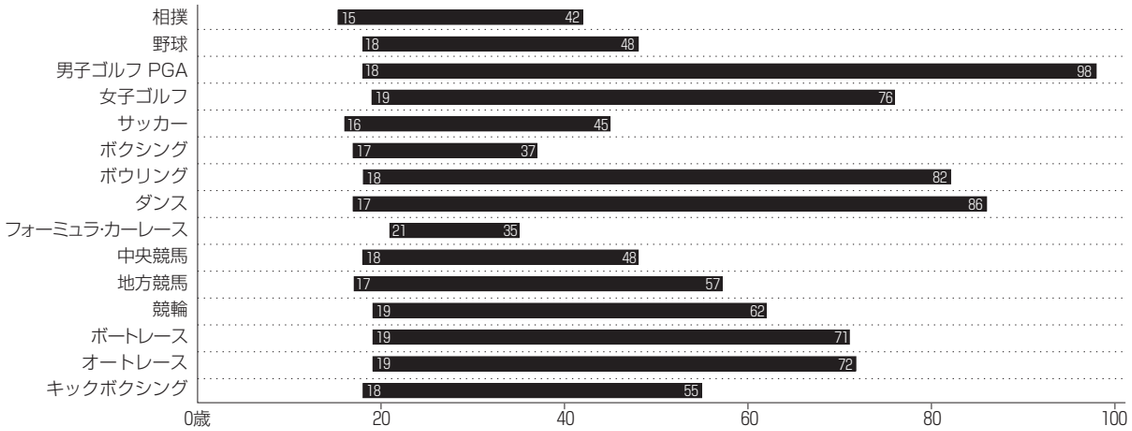
選手について

選手の数について、最少年齢はいずれの競技も差がないが、最高年齢についてはかなりの違いがみられる。獲得賞金額トップ10のうち、中央競馬、地方競馬については、各々脚注の通り騎手に支払われる金額が決定される。

◆選手の数



◆選手の最少年齢・最高年齢



◆主な収入

競技	月給	年俸	賞金・懸賞金	契約金	タイトル料	指導・講演料	出場手当	特別給
相撲	○		○					
野球		○	○	○	○	○		
男子ゴルフ PGA			○	○		○		
女子ゴルフ			○	○		○		
サッカー		○					○	○
ボクシング			○		○		○	
ボウリング			○	○		○		
ダンス			○			○		
フォーミュラ･カーレース			○	○			○ ※ただしレースによる	
中央競馬	○		○				○	
地方競馬	○		○				○	
競輪			○				○	
ボートレース			○				○	
オートレース			○				○	
キックボクシング			○				○	

◆2012年獲得賞金金額トップ10（単位：円）

男子ゴルフ PGA

1.	尾崎　直道	34,859,750
2.	井戸木鴻樹	26,933,433
3.	室田　　淳	24,469,166
4.	F. ミノザ	23,768,357
5.	髙見　和宏	21,860,999
6.	中嶋　常幸	16,549,900
7.	奥田　靖己	14,973,100
8.	三好　　隆	10,191,250
9.	湯原　信光	8,822,392
10.	植田　浩史	8,742,285

女子ゴルフ

1.	全　美　貞	132,380,915
2.	イ　　ボミ	108,679,454
3.	有村　智恵	101,889,564
4.	アン ソンジュ	101,206,438
5.	佐伯　三貴	91,972,093
6.	フォン シャンシャン	81,875,053
7.	森田理香子	76,354,957
8.	李　知　姫	75,293,583
9.	朴　仁　妃	72,879,424
10.	服部　真夕	71,681,783

フォーミュラ･カーレース

1.	中嶋　一貴	15,633,000
2.	伊沢　拓也	12,350,000
3.	アンドレ･ロッテラー	10,983,000
4.	塚越　広大	10,633,000
5.	J.P.デ･オリベイラ	9,450,000
6.	ロイック･デュバル	5,000,000
7.	松田　次生	2,833,000
8.	大嶋　和也	2,783,000
9.	平手　晃平	1,133,000
10.	小暮　卓史	633,000

中央競馬
※JRAレースに限る

1.	岩田　康誠	3,088,427,000
2.	内田　博幸	2,658,234,000
3.	福永　祐一	2,362,858,000
4.	蛯名　正義	2,289,203,000
5.	浜中　　俊	2,161,111,000
6.	横山　典弘	1,994,578,000
7.	川田　将雅	1,626,855,000
8.	北村　宏司	1,536,466,000
9.	和田　竜二	1,443,057,000
10.	池添　謙一	1,424,469,000

注）賞金の5～7%が騎手の収入となる。

地方競馬
※地方競馬レースに限る

1.	戸崎　圭太	1,093,442,000
2.	今野　忠成	510,860,000
3.	真島　大輔	496,250,000
4.	森　　泰斗	484,782,000
5.	坂井　英光	481,976,000
6.	的場　文男	430,659,000
7.	張田　　京	416,131,000
8.	御神本訓史	306,881,000
9.	石崎　　駿	292,418,000
10.	本橋　孝太	284,025,000

注）賞金の5%が騎手の収入となる。

競輪

1.	村上　義弘	158,590,868
2.	成田　和也	149,966,500
3.	武田　豊樹	138,599,399
4.	山崎　芳仁	96,072,600
5.	長塚　智広	86,351,000
6.	深谷　知広	75,048,500
7.	佐藤　友和	66,590,400
8.	浅井　康太	63,532,600
9.	岡田　征陽	57,239,600
10.	脇本　雄太	52,316,500

ボートレース（男子）

1.	山崎　智也	163,512,000
2.	井口　佳典	138,558,000
3.	松井　　繁	125,378,000
4.	太田　和美	117,536,000
5.	瓜生　正義	114,313,000
6.	平尾　崇典	84,489,000
7.	白井　英治	82,461,000
8.	馬袋　義則	81,589,000
9.	丸岡　正典	80,446,670
10.	今垣光太郎	74,166,000

ボートレース（女子）

1.	田口　節子	41,897,000
2.	三浦　永理	41,049,500
3.	日高　逸子	36,452,000
4.	山川美由紀	35,409,000
5.	平山　智加	31,947,500
6.	香川　素子	31,099,066
7.	角　ひとみ	27,632,000
8.	中谷　朋子	26,568,000
9.	寺田　千恵	26,279,000
10.	宇野　弥生	25,652,000

オートレース

1.	髙橋　　貢	109,799,225
2.	永井　大介	95,604,115
3.	荒尾　　聡	62,875,380
4.	金子　大輔	61,960,635
5.	浦田　信輔	59,362,830
6.	中村　雅人	59,192,060
7.	有吉　辰也	56,359,810
8.	木村　武之	49,648,680
9.	早川清太郎	47,117,840
10.	篠原　　睦	40,913,340

選手について
選手の活動

相撲	新弟子は新弟子検査を受けた本場所から前相撲に臨む。前相撲では定められた勝ち星をあげた力士から順に新序(新しい序ノロ）として認められ、翌場所は序ノロとして相撲人生の第一歩を踏み出すとともに相撲教習所に通う。 その後、序二段、三段目、幕下、十両、幕内へと実力次第で進む。 幕下以下の力士は関取の付け人としての仕事もある。力士は年6回の本場所で良い成績を残すため、稽古に励む。また春、夏、秋、冬には全国を巡業し、心身の修業を積む。
野球	チーム保有選手70名中28名が出場登録選手として出場できる。 〈移籍〉選手の移籍は主にトレードもしくはフリーエージェント(FA)制度をもって行われる。 ・トレード…球団所属の選手を他球団に移籍させること。選手の意思は反映されない。 ・ＦＡ制度…一定の条件をクリアすれば選手の意思で他球団に移籍できる制度。
男子ゴルフ PGA	フリー並びにゴルフ場やスポーツ企業等と契約・所属する。 PGA資格認定プロテストの最終プロテストを経てトーナメントプレーヤーとしてPGAに登録される。 ゴルフ練習場と契約・所属し、ゴルフ指導を行う。
女子ゴルフ	フリー並びに、ゴルフ場やスポンサー企業と契約･所属する。 クォリファイングトーナメントの成績順位上位者が、ツアートーナメント及びステップ･アップ･ツアーの出場権を得る。 シード選手（賞金ランキング上位50名）は翌シーズンの出場資格が保証されるため、クォリファイングトーナメントへの出場が免除される。 また、ステップ･アップ･ツアー優勝者は翌々週からのレギュラーツアー4試合の出場権が得られる（特殊競技を除く）。
サッカー	トップチームの下にユースチームがあるが、ユースチームの選手でも実力次第では試合に出ることができる。2種（ユースチーム）の選手でも5名まではトップの試合に出場できる。
ボクシング	最初は4回戦でデビュー。その後、戦績･実力向上に従い、6回戦、8回戦、10回戦以上の試合に出場できるようになる。
ボウリング	原則シード選手は男子48名・女子18名。シード選手以外はトーナメント選抜大会から参加し上位者が本大会に出場できる。各トーナメントの出場優先順位（シードは除く）については、男子は年4回の「シーズントライアル」、女子前期は昨年度のランキング順、後期は「出場優先順位決定戦」によって決定される。
ダンス	競技会に出場する。教師資格を取得し指導する。教師資格にはランクがあり、取得後も昇級テストが随時行われている。ダンススクールを開業する者もいる。
フォーミュラ･カーレース	国際ドライバーライセンスBクラス以上を取得後、フォーミュラ･ニッポンに参加するチームと契約を結び、大会および指定された公式合同テストへの出場、また、JRPが主催する各種プロモーションイベントに参加する。 この他、メーカーの開発テストへの参加、若手育成スクールの講師として後進の指導にあたるドライバーもいる。
中央競馬	あらかじめ決められた各トレーニングセンター内の所属厩舎に配属される（厩舎に所属しないフリーの騎手もいる）。 所属厩舎の調教師と騎乗契約を結び、原則として調教師の管理馬に騎乗しレースに出走する。他厩舎（調教師）からの依頼があれば、その厩舎の馬に騎乗することもできる。最近では騎乗契約を結ばずにフリーの立場をとる騎手も多い。新人騎手は「見習騎手」と呼ばれ、勝利度数により3段階にランク付される。 〈見習騎手〉免許の通算取得期間が3年未満で勝利度数が100回以下の騎手を「見習騎手」と呼び、一般競走に騎乗する場合は負担重量が軽減される（30勝以下3キロ減、31勝以上50勝以下2キロ減、51勝以上1キロ減）。
地方競馬	本人の希望に基づいて決めた所属競馬場、期間限定騎乗厩舎に所属し、レースに出走する。騎手招待競走や交流競走、期間限定騎乗などの場合は他の競馬場でも騎乗する。 〈減量騎手〉新人騎手は勝利数、経験年数により減量騎手として負担重量が軽減される（基準は主催者によって異なる）。
競輪	資格取得後、各選手の地元の選手会支部に所属。まずA級3班に格付けされる。月2～3回ほどのレースを斡旋され、1日1レース出走。その後の成績により、級班は変動する。
ボートレース	競走会より月１節～２節ほどのレースを斡旋され出場。成績次第ではA級に昇格し、月に２～３節出場可能となる。
オートレース	卒業後各レース場に配属され、そこを中心に活動する。 月に8日ほどのレースを斡旋され、原則として1日1レース出走。成績次第で昇級する。クラスがS･A･Bとあり、年2回クラス分けが行われる。登竜門としては「新人王決定戦」がある。選手はデビュー直後は2級車500ccに乗ることが義務付けられているが、一定期間（約2年）経つと1級車600ccに乗り替えることができる。
キックボクシング	最初は2回戦でデビュー。その後、戦績・実力向上に従い、3回戦、5回戦の試合に出場できる。

選手について
選手の収入

相撲

・十両になると協会から給料が支給される。
・賞金…本場所の各段優勝力士、三賞力士（幕内）には賞状と賞金が贈られる。

幕内優勝賞金	1,000万円	三段目優勝賞金	30万円
十両優勝賞金	200万円	序二段優勝賞金	20万円
幕下優勝賞金	50万円	序ノ口優勝賞金	10万円
三賞受賞賞金	各200万円		

・懸賞…本場所で、幕内力士の好取組に対して懸賞がかかる。勝ち力士に贈られるもので、企業等の提供による。懸賞金は1本6万円。

野球

入団の際、契約で定めた金額の契約金を受け取る。
年俸は、前シーズンの成績によっては大幅に減俸される危険があるので、野球協約で最大減額は1億超40%まで、1億以下25%まで、年俸最低保証金額440万円と定めている。
また、セ・パ各リーグの以下の表彰受賞者には、それぞれタイトル料(賞金)が授与される。
最優秀選手=300万円
最優秀防御率投手、最多勝利投手、最優秀投手、最多奪三振投手、首位打者、最多安打、最多本塁打、最多打点、最高出塁率、最多盗塁、最多セーブ、最優秀中継ぎ、最優秀新人=各100万円
ベストナイン、ベストDH(パのみ)=各50万円
正力松太郎賞=500万円(両リーグを通して選考。選手以外の受賞もある)
沢村賞=300万円(両リーグを通して選考)
ゴールデン・グラブ賞=50万円　等

男子ゴルフ PGA

賞金、レッスンによる指導料、企業との契約金、講演料等が主な収入となる。

女子ゴルフ

トーナメント出場による賞金、レッスンによる指導料、企業との契約金、講演料等が主な収入となる。

サッカー

統一契約書に明記された金額に従い、基本報酬、変動報酬の2本立てで支給される。
・基本報酬…選手およびクラブの成績のいかんにかかわらず支払われる。報酬年額で提示。
・変動報酬…出場給(試合出場に対して支給)、勝利給(勝ち試合、引き分け試合等に対して支給)、成果給(大会でのチームの順位等に応じて支給)、特別給(日本代表チームへの選出、個人表彰受賞等に対して支給)等がある。

ボクシング

試合に出場してファイトマネーを得る。
・ノンタイトルマッチ…金額はプロモーターが決める。
・タイトルマッチ…人気・集客力の有無、防衛回数などでファイトマネーの額は変わる。

ボウリング

トーナメント出場による賞金、レッスンによる指導料、ボウリング業界をはじめとする企業との契約金が主な収入となる。数多くのプロボウラーがボウリング場やプロショップに勤務。

ダンス

・主な収入源は、デモンストレーションの謝礼及びレッスン料
賞金　全日本選手権優勝賞金　100万円
スペシャル競技会の優勝賞金　160万円

フォーミュラ・カーレース

・主な収入源は、参加チームとの契約金、企業との契約金、選手権ポイントに応じた賞金
①各大会主催者賞（ドライバー賞金）

1位	4,000,000円
2位	2,000,000円
3位	1,000,000円
4位	500,000円
5位	400,000円
6位	300,000円
7位	200,000円
8位	100,000円

②各大会東京中日スポーツ賞（大会により設定されない場合もあり）
100,000円
③シリーズ賞金

ドライバーズチャンピオン	5,000,000円
チャンピオンチーム	5,000,000円
ルーキー・オブ・ザ・イヤー	500,000円

※3人以上のルーキー参加の場合のみ設定する。

中央競馬

騎手の収入は出走ごとの騎乗手当、8着までに入着すると支払われる進上金(競走の種類によって賞金の5～7%)がある。厩舎所属の場合は騎乗契約料(所属厩舎からの月給にあたるもの)も収入となる。

地方競馬

騎手の収入は出走ごとの騎乗手当、5着までに入着すると進上金(賞金の5%)、厩舎からの騎乗契約料(所属厩舎からの月給にあたるもの) が主となる。

競輪

選手の収入は主として賞金である。賞金は成績に応じて支払われ、他に出場手当及び日当等の手当から成り立っている。
賞金総額及び平均賞金取得額：2012年（平成24年）1月～12月
・賞金総額　282億7,054万3,687円
・１人あたり平均取得額　904万3,680円

ボートレース

選手の収入には競走成績に応じて支払われる賞金と出走手当(参加賞を含む)がある。
賞金総額および平均取得額：2012年（平成24年）1月～12月
・賞金総額　256億8,958万7,992円
・１人あたり平均取得額　1,610万6,324円

オートレース

選手の収入には競走成績に応じて支払われる賞金と出場手当、参加手当がある。
賞金総額及び平均賞金取得額：2012年（平成24年）1月～12月
・賞金総額　56 億 8,889 万 5,626 円
・平均取得額　1,251 万 3,133 円

キックボクシング

試合に出場することによって得るファイトマネー、企業との契約金など。金額は協会が決定する。防衛回数、対戦相手、集客力、会場の規模などの条件によって増減する。「KO賞」「ベストファイト賞」などの賞金が授与される場合もある。

指導者について

スポーツ界において、優れた指導者の存在と一貫した指導体制の確立は、その競技の恒常的発展とそれを支える底辺の拡大強化に欠かせない要素である。

プロスポーツ14団体の指導者養成と指導体制の現状を探ると共に、次ページで底辺の拡大の観点から行政の協力等による指導者認定制度の概要を紹介する。

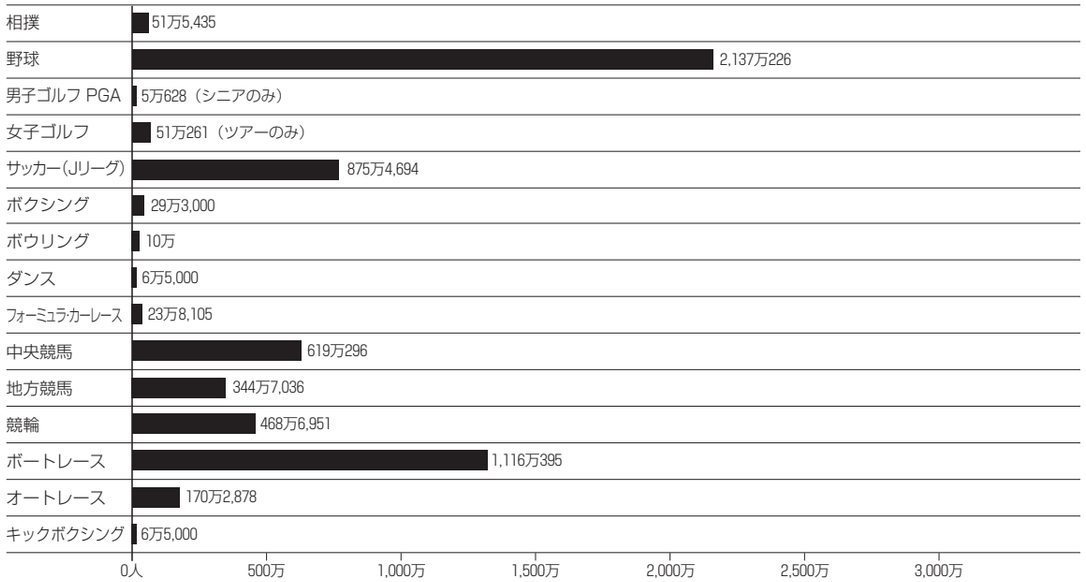
競技	指導者及び指導者養成の現状	アマチュアとの連携
相撲	実技に関しては部屋持ちの年寄が指導全体を管理し、部屋付きの年寄が協力し指導を行う。指導者である年寄には現役時代に一定の成績を残した者が年寄名跡を継承して就任する。現役時代の実績が指導者となる基準になっており、特に指導者養成のための制度はない。先輩力士が後輩力士の面倒を見、指導にあたるというかたちも長い歴史のなかで培われてきた方法。新弟子検査に合格すると6ヵ月間相撲教習所に通うが、その実技指導には理事長の任命を受けた年寄があたる。	指導面においてアマチュアとの交流は盛ん。大学相撲部の部員が相撲部屋を稽古のために訪れる等、日常的に行われている。また、各地で毎年6回（原則）「少年相撲教室」が開催されている。
野球	監督を中心にコーチ陣が指導を行う。指導者である監督、コーチはほとんどがプロ経験者。特に指導者養成のシステムはなく、現役時代の実績が指導者となる基準となっている場合が多い。	
男子ゴルフ PGA	昭和60年に設立されたインストラクター（現:ティーチングプロ）資格認定制度は、現在A·Bの2階級を実施。これまでに輩出した指導者は約3000名にのぼる。B級講習会は心理学、トレーニング学、医学などの学術科目に加え、PGA基本ゴルフ教本をもとにした指導実習、実技実習など、27日間（255時間）の講習を実施。A級講習会では11日間（80時間）で、経営学、トッププレーヤーの育成、カウンセリング論、ゴルフコースの管理など幅広い知識を学んでいる。	日本ゴルフ協会主催のジュニアスクールは、PGA会員が指導を行っている。また、ジュニア委員会が中心となって、地方自治体とタイアップして子供たちにゴルフを伝えていくジュニア育成プロジェクトを実施。他にも、「春休み親と子&シニアレッスン会」やチャリティプロアマ大会などを全国各地で開催し、ゴルフの普及活動を積極的に行っている。
女子ゴルフ	健全なプロゴルファーの育成、ゴルフ技術、ルール及びマナーを研究錬磨し、その指導普及を図るためのゴルフ指導者の資質向上及び資格認定を行うという事業目的のもと、PGAと資格認定制度に関して協定を結び、正式にLPGAティーチングプロフェッショナル資格認定制度を発足させた。技術指導に必要な学術知識、身体構造等多方面からの講義内容を盛り込んだ講習会を開催し、LPGA公認ティーチングプロフェッショナルとして相応しい能力を備えた指導者を養成している。LPGA独自でティーチングアシスタント制度を設けティーチングプロフェッショナルを目指すアマチュアの育成を行っている。子ども達の人間形成をサポートする、ジュニア専門指導員（ジュニアゴルフコーチ）の養成も行っている。	様々なトーナメント、イベント、スクールを開催し、ゴルフの普及だけでなく、子ども達の健全育成サポートを目的としたジュニア育成活動を行っている。また、アマチュアレッスン会への指導者派遣も日常的に行われている。
サッカー	Jリーグに関る指導者は、指導するチームの段階に応じて、日本サッカー協会が認定する指導者資格を取得している。特にJリーグトップチームの監督は必ずS級を取得していなければならない。S級はJリーグ発足にあたり、新規に設定された。	Jリーグ各クラブにはユース、ジュニアユース、ジュニアの選手育成組織（アカデミー）があり、低年齢層から一貫した指導を行っており、各年代別の大会等も開催されている。
ボクシング	指導者養成制度は特にない。ジムのオーナー（会長）を中心にトレーナー、セコンドが選手の技術指導、健康管理等を行う。指導者はプロ経験者がほとんど。プロボクシング界の指導者はすべてライセンスが必要。オーナーとなるための審査はボクシング協会の資格審査委員会において過去の実績をもとに行われる。トレーナー、セコンドはオーナーの責任のもと、推薦というかたちでボクシングコミッションに申請が提出され、ライセンスが交付される。	指導面においてアマチュアとの交流は盛ん。高校生等のアマボクサーでも、通常、プロのジムでトレーニングし、インターハイ、国体等に出場している。

競技	指導者及び指導者養成の現状	アマチュアとの連携
ボウリング	1992年より「公認インストラクター制度」を発足させて以来、インストラクター部の主導で、各級講習会の開催ならびに資格認定、各種専門研修会を頻繁に開催。現在、A級65名を含む864名の公認インストラクター（A級·B級·C級）が誕生、全国で活躍している。夏休みには、「全国ジュニアボウリングスクール」が各地区中心になって実施され、年間で約60,000名が受講して好評を得ている。機関誌「インストラクターズニュース」も毎年1回発行。	「認定インストラクター制度」の資格認定機関として、アマチュアを含め統一した指導システムの充実に努力。そして、全日本ボウリング協会と連携しながら、2006年より公益財団法人日本体育協会「公認スポーツ指導者制度」の公認コーチ養成講習会に参加している。
ダンス	基本的にはダンススクールなどで、指導者として活動している。日本ダンス議会が運営する昇級テストに向け、ベテラン選手が指導者として後進の育成にあたる場合もある。	2014年度より新たに本来のDSCJ（日本ダンススポーツ議会）の理念に則った、WDCAL（世界ダンス議会アマチュアリーグ）競技会を開催する。
フォーミュラ·カーレース	チーム監督を中心とし、エンジニアやスタッフが、フォーミュラカーレースに関する様々な規則やマシンを速く走らせる為に必要な知識、また、レーシングドライバーとしてのキャリアを積み上げていく為のノウハウを指導したりアドバイスを行う。先輩ドライバーが後輩に対し、実践的なテクニックを指導する場合もある。特に指導者養成のシステムはないが、監督はほとんどが元レーシングドライバーやエンジニアで、現役時代の実績が指導者となる基準となっている場合が多い。	ジュニア·フォーミュラカーレースであるフォーミュラチャレンジ·ジャパンを運営。「世界で活躍する有能な若手ドライバーの発掘と育成」および「日本のモータースポーツの裾野を広げ、将来を支える人材の育成」を目的としている。
中央競馬	競馬学校で指導を行う実技教官は、大学馬術部出身者などの乗馬経験の豊富な者が主。教官は、馬事公苑等で3〜4年間の騎乗技術及び指導法を習得した者の中から選ばれている。競走騎乗指導に関しては、プロ騎手経験者も含め指導にあたる。	馬事公苑、各競馬場等で、小·中·高校生、社会人を対象に、馬術教室が開催されており、一般への乗馬普及が図られている。小·中学生の中にはこの教室がきっかけでプロをめざす者もいる。
地方競馬	地方競馬教養センターで実技指導を行う教官は、競馬実務、馬学、乗馬等を専門的に学んだ者が主。教官は海外及び国内の研修機関等で研修を受け、乗馬技術の向上、指導法の習得に努める。	教養センターにおいて初心者を対象とした合宿制の乗馬教室を開講するほか、その施設等をアマチュアの馬術競技会に貸し出し、乗馬普及に協力している。
競輪	日本競輪学校で実技指導を行う教官は、公益財団法人JKAが職員採用した者で、その多くはプロ経験者である。特に養成制度はない。	公益財団法人日本自転車競技会が窓口となっている全国各地の練習所で、競輪選手を志望する者に対して自転車競技の技術指導等を行っている。プロ·アマ間の指導に関してもオープンで、世界選手権はプロ·アマ双方の選手が出場し、コーチもプロ·アマ双方の団体から派遣される。
ボートレース	やまと学校で実技指導を行う教官は、日本モーターボート競走会の職員が行う。プロ選手になった後、支部ごとに行われる「新人指導」では先輩選手が指導を行う。	特になし。
オートレース	オートレース選手養成所で基礎指導を受けた新人には、卒業後、本財団が現役選手を指導員として指名し、レーステクニック、整備技術を実践的に指導する「指導員制度」がある。	特になし。
キックボクシング	ジムオーナー（会長）を中心に、トレーナー陣が選手の技術指導、健康管理にあたる。指導者のほとんどがプロ経験者。タイからムエタイ経験者が招聘されるケースも多い。指導者を養成する制度はないが、トレーナーやセコンドになるためにはライセンスが必要。オーナーの推薦を受けて協会に申請し、資格を得る。	大学の体育会をはじめとして、アマチュアとの交流は盛んに行われている。ジムの会長、トレーナーが大学で指導することもあれば、学生がプロのジムでトレーニングすることもある。

観戦について

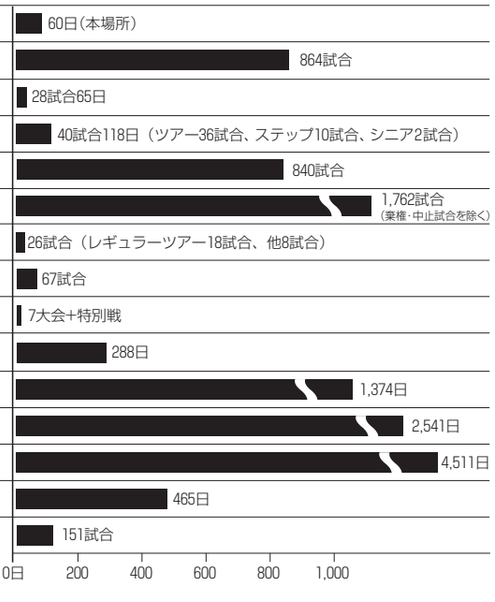
観戦チケットは、いずれの競技でも試合内容、観戦場所等によってかなりの幅がある。野球やサッカーでは、特別契約のボックスシートやシーズンシート等を設けているチームもある。公営競技では一般の入場料金は低く設定されているが、指定席での観戦の場合、別料金がかかり、また、特別席のロイヤル席（貴賓席）では、年会費を払った人が利用できるようになっている。各団体とも販売方法、観客誘致策にインターネット、携帯電話によるサービス等の情報通信網の活用が取り入れられていることに注目したい。

◆観客動員数（平成24年）



◆観戦チケット料金・入場料

◆競技開催延日数(試合数)



◆観戦チケット・入場券販売方法

競技	チケットぴあ	各プレイガイド	団体·チーム直接販売	当日会場販売	電話·パソコン販売
相撲	○	○	○（協会）	○	○
野球	○	○	○（主催者関係）	○	○
男子ゴルフ	○	○	○（主催者関係）	○	○
女子ゴルフ	○	○	○	○	○
サッカー	○	○	○	○	○（チームにより異なる）
ボクシング	○	○	○	○	
ボウリング			○（主催大会）	○	
ダンス			○	○	○
フォーミュラ·カーレース	○	○	○（主催者関係）	○	○
中央競馬				○	●（電話·インターネット）※
地方競馬				○	●（電話·PC）
競輪				○	●（電話·PC）
ボートレース	○（一部ボートレース場のSG競走）			○	●（電話·PC）
オートレース				○	●（電話·PC）
キックボクシング	○		○	○	

●＝馬券、車券、舟券の発売（電話）＝電話投票　(PC)＝パソコン等
※インターネットによる指定席販売(会員制)

◆観客誘致策

競技	観客誘致策	
男子ゴルフ	·新聞、雑誌、テレビ、インターネット等による事前告知 ·開催ゴルフ場及び近隣のゴルフショップ、練習場、各プレイガイドなどによる前売りチケットの販売 ·試合会場の充実(ギャラリー用駐車場の確保、送迎バスの運行、ギャラリープラザ、休息場、飲食物や記念グッズの販売場、公衆電話・臨時トイレの設置等) ·各トーナメント独自の催し（チャリティイベント・レッスン会・試打会・クイズ・抽選会・プレゼント・地元物産展等）	
女子ゴルフ	·新聞、雑誌、テレビ、インターネット等による事前告知 ·開催ゴルフ場及び近隣のゴルフショップ、練習場、各プレイガイドなどによる前売りチケットの販売 ·試合会場の充実(ギャラリー用駐車場の確保、送迎バスの運行、ギャラリープラザ、休息場、飲食物や記念グッズの販売場、臨時トイレの設置等) ·各トーナメント独自の催し（チャリティイベント·レッスン会·試打会·クイズ·抽選会·プレゼント·地元物産展等）	
フォーミュラ·カーレース	·新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネット・携帯サイトによる事前告知や情報の提供 ·各大会ごとの独自のイベントの開催：ドライバーパレード、イベントステージでのドライバートークライブ、チームギャル撮影会、観客参加型ゲーム大会　等	
中央競馬	·施設改善等による施設機能の充実 ·特別イベントの開催 ·調教公開、ビギナー向け競馬教室の開催、ファン投票の実施	·インターネットでの情報提供 ·テレビ・ラジオCM、新聞・雑誌広告
地方競馬	·施設改善等による施設機能の充実 ·ファン向けイベントの開催 ·競馬ビギナー教室の開催、ファン投票の実施 ·来場者のためのポイントカード制導入	·インターネット、携帯電話等による情報提供 ·インターネット、携帯電話でのレース映像（動画）提供
競輪	·施設改善等による施設機能の充実 ·電話投票、インターネット投票のサービス改善 ·専用場外車券売場の設置推進 ·ガールズケイリン（GIRLS KEIRIN）の導入 ·競輪・ケイリンの国際化の推進	·ナイターレースの充実(ミッドナイトケイリンの導入) ·オフィシャルHP（keirin.jp）の充実 ·重勝式車券の発売拡大 ·モーニング競輪の導入
ボートレース	·施設改善等による施設機能の充実 ·ＳＧ（スペシャルグレード）競走の実況中継 ·ペアボート試乗会の実施	·全国総合払戻サービスの充実 ·モーニングレース開催場の充実 ·グレード競走の見直し
オートレース	·SG競走のテレビ、ラジオ、新聞等による開催告知 ·衛星放送及びインターネット中継による実況中継 ·インターネット、携帯電話による情報提供 ·各レース場でのファン向けイベントの開催	·電話投票、インターネット投票のサービス改善 ·インターネット、携帯電話でのレース映像(動画)提供 ·ナイターレースの充実 ·オフィシャルHP（autorace.jp）の充実

観戦について

観戦チケットに関して

相撲

チケットの種類／桝席、椅子席がある。当日券は会場にて販売。
チケット料金／桝席は9,200円～11,300円。椅子席は2,000円～9,500円。

野球

前売り券／各球団のフランチャイズ球場もしくは各種プレイガイドで販売。
当日券／当日試合球場で販売。
チケット料金／内野指定席2,300円~8,000円、内野自由席1,200円~2,800円、外野指定席1,500円~2,200円、外野自由席1,000円~1,800円程度。
年間指定席／1年契約で販売。フランチャイズ球場に問い合わせの後、直接もしくは球場発行のパンフレット等で座席を確認のうえ契約。

男子ゴルフ

前売り券･当日券／開催コースまたは大会事務局などにて販売。開催全日程の通し券の4枚つづりが主。当日券は試合会場で販売。
チケット料金／前売り通し券は3,000円～15,000円、当日券予選チケットは無料～8,000円、決勝チケットは2,000円～8,000円程度。

女子ゴルフ

前売り券／開催コースもしくは大会事務局にて販売。通常、開催全日程の通しチケットが主。
当日券／開催コースで販売。当日券予選チケット、当日券決勝チケットがある。
チケット料金／前売り通しチケットは3,000円～7,000円、当日券予選チケットは無料～3,000円、当日券決勝チケットは3,000円～4,000円程度。

サッカー

チケット購入法／各クラブによって異なる。チケットぴあ、ローソンチケットをはじめ、各プレイガイドでの購入が主である。
チケット料金／各クラブ、会場によって異なる。特別席・SS・S席4,000円~7,000円程度。自由席500円～3,000円程度。

ボクシング

前売り券／各プロモーターによって異なる。チケットぴあ、ローソンチケットが主であるが、ジム、試合会場で販売している場合もある。
当日券／会場で販売。
チケット料金／3,000円～100,000円程度。

ボウリング

前売り券・当日券／通常、会場となるボウリング場で販売される。
チケット料金／大会ごとに異なるが、1,000円～3,000円が一般的。

ダンス

チケットの購入法／日本ダンス議会関係教室および各選手個人が販売。電話でも購入できる。
チケット料金／クラス別競技会は2,500円～8,500円
全日本選手権等は2,000円～55,000円

フォーミュラ･カーレース

前売券／チケットぴあなど各種プレイガイド、開催サーキット、コンビニエンスストア、旅行代理店、カーショップ、タイヤショップ、JAF、インターネット等で購入できる。
当日券／開催サーキットにて販売。
チケットの種類／一般入場券（土日通し券）、ピットウォーク券、パドックパス、シリーズパドックスパス
チケットの料金／開催サーキットにより異なるが、
一般入場券中学生以下無料～6,500円
ピットウォーク券1,000円～2,000円
パドックパス4,000円～15,500円

キックボクシング

前売り券／チケットぴあ、試合会場、協会各ジム、後楽園ホール。
当日券／試合会場。
チケット料金／会場や試合によって異なるが4,000円～30,000円。

馬券･車券･舟券に関して

中央競馬

JRAの馬券（勝馬投票券）は、単勝･複勝･枠連･馬連･ワイド･馬単･3連複･3連単･WIN5（5重勝単勝式）の9種類があり、競馬場、ウインズ及びエクセル、電話･インターネット投票で発売されている（WIN5はインターネット投票限定での発売）。

ウインズ、エクセル／北海道から九州まで全国47ヶ所（平成24年4月現在）に設置され、JRAが施行するレースの馬券について、発売と払戻が行われている。3ヶ所のエクセルと一部のウインズでは、競馬場と同様に指定席があるなど、ゆったりとした観戦も可能である。
電話･インターネット投票／電話･インターネット投票会員になると、ARS方式（プッシュホン電話を使用）やIPAT方式（パソコン･携帯電話･スマートフォンからのインターネット投票）を使って、JRAのすべてのレースの馬券が購入できる。さらに、平成23年には、JRAダイレクトの会員となることで、パソコンからのクレジットカード決済によるインターネット投票も可能となった。

地方競馬

勝馬投票券（馬券）には、単勝、複勝、馬連、馬単、枠連、枠単、ワイド、3連複、3連単があり、他にオッズパーク会員のみ購入できる5重勝（ばんえい帯広、盛岡、水沢、笠松、園田、姫路、佐賀）と7重勝（ばんえい帯広、佐賀）がある。競馬場によって発売する馬券の種類は異なる。開催中の競馬場で直接購入する以外に、場外発売所や電話・インターネットで購入することができる。

場外発売／各主催者等が設置する場外発売所が全国にある。これらの場外発売所では、自場の馬券だけでなく、他の競馬場の馬券を発売することもある。一部の外向場外やミニ場外では、早朝前売り発売も行なわれる。また、開催していない時の競馬場を利用して他の競馬場の馬券を発売する場間場外発売も拡大している。（開催中に他場の馬券を併売する場間場外発売も行なわれている）
電話投票／会員になると自宅や外出先から電話、パソコン等を利用して手軽に馬券が購入できる。購入代金の支払いや払戻金の受け取りは指定した金融機関の預金口座を通じて自動的に行われる。
なお、地方競馬の電話投票システムには、複数の主催者が共同で運用している「SPAT4＝南関東の4主催者」、「オッズパーク・D-net＝帯広市他10主催者」「楽天競馬＝北海道他14主催者」がある。また、2012年10月より、JRAのインターネット投票システム「IPAT」による地方競馬の発売も始まった。

競輪

車券の種類は競輪場によって異なるが、車番二連勝単式、枠番二連勝単式、車番三連勝単式、車番二連勝複式、枠番二連勝複式、ワイド（拡大車番二連勝複式）、車番三連勝複式、重勝式の8種類がある。車券は競輪場で直接購入する以外にも以下の方法で購入することができる。

場外車券売場／全国に66ヵ所設置されており、レース当日に車券を購入できる。ただし大きなレースでは競輪場を臨時場外車券売場として車券発売を行う。
電話投票システム／サイクルテレホンセンターに加入登録し、プッシュホン電話を使って車券を購入するシステム。
インターネット投票システム／電話投票システムの加入者が、登録のうえパソコンや携帯電話から車券を購入するシステム。

ボートレース

単勝式、複勝式、二連勝単式、普通二連勝複式、拡大二連勝複式、三連勝単式、三連勝複式の７種類がある。舟券は各ボートレース場以外にも以下の方法で販売されている。
ボートピア／場外発売場が全国に56ヵ所設置され、ハイテク映像を使ったボートピア内でレースを観戦しながら舟券を購入することができる。
ボートレース会員電話投票システム／'95年4月1日より電話投票がオンライン化し、'98年4月1日より全国24ボートレース場の全レースに投票可能となった。
ボートレースインターネット投票／01年７月10日より全国24ボートレース場の全レースが投票可能となった。
全国総合払戻サービス／'12年4月1日より、全国24のボートレース場及び一部ボートピア等で舟券の払戻ができる総合払戻サービスを開始。

オートレース

単勝式、複勝式、連勝単式、連勝複式、拡大二連勝複式、三連勝単式、三連勝複式、重勝式の8種類がある。レース場で直接購入する以外でも以下の方式で購入することができる。（重勝式はインターネット投票限定での発売）
電話投票システム／オートレーステレホンセンターに加入登録したうえで、自宅や外出先からプッシュホン電話を使って購入するシステム。
オートレースインターネット投票／パソコンや携帯電話から車券を購入するシステム。

社会貢献活動

プロスポーツ界でも社会貢献活動は多岐にわたっており、最も多く見られるのが、災害義援金の拠出である。また、子供たちに直接指導する機会を設けている団体もある。公営競技は本来、公益事業の増進に寄与することが施行目的の一つ。収益金はもともと自治体の財源に組み入れられているので、ここでいう社会貢献とは一線を画するところがある。しかし、各団体ではそれとは別に社会福祉の向上や地域への貢献も考慮している。

競技	社会貢献活動の内容
相撲	「赤い羽根共同募金」等、街頭募金に力士を積極的に参加させている。また、15～16の部屋では夏休みに1ヵ月間部屋を開放して、子供たちが力士と直接ふれあうことによって相撲に親しむと共に、礼儀作法や挨拶を覚える機会をつくっている。
野球	毎年１年間を通じて野球教室を開催して、現役選手やコーチが小･中学生に直接指導する機会をつくっている。また、選手会では、身障者スポーツ団体等に寄付している。個人では、毎年遠征先の養護施設を訪問したり、施設の子供を球場に招待するなどのほか、奪三振数に応じた金額を社会福祉協議会に贈る選手もいる。
男子ゴルフ PGA	協会が主催する「日本プロゴルフ選手権大会」やシニア競技にて開催コース・協賛スポンサーと協力してチャリティイベントを開催し、チャリティ金を寄付。また、ジュニア育成や「PGAフィランスロピー地区事業」なども開催している。
女子ゴルフ	トーナメント会場でサイン色紙などを販売し、収益金をチャリティ金としている。主に選手の発案により、日本盲導犬協会の盲導犬育成基金を支援し、また、国土緑化推進機構やトーナメント開催自治体へ寄贈している。 協会主催の「日本女子プロゴルフ選手権大会コニカミノルタ杯」では、イベント等での収益金を地元自治体へ寄贈している。また、ジュニアゴルフクリニックを実施し、ゴルフというスポーツの楽しみ方やマナー等を指導し、ジュニア育成に努めている。
サッカー	クラブ施設の開放やフットサル、その他のスポーツを通し、選手や指導者が地域の人々と交流を深める場を創り出している。また、障がいを持った人たちも、ともに楽しめるスポーツシステムの構築、地域に根ざしたスポーツ文化を広げる活動をしている。さらに、(財)さわやか福祉財団の運動がJリーグの理念と一致するため、寄付をするなど、さまざまな活動を行っている。 2003年度からは、Jリーグ全選手に対して社会貢献活動を義務化(日本のスポーツ界では初めて)。
ボクシング	各地区において、チャリティボクシングを開催し、現役、元チャンピオンらが参加し、収益金を寄付している。
ボウリング	毎年（公社）日本ボウリング場協会が主催する「宮様チャリティボウリング大会」に協力し、選手が身体の不自由な人たちに直接ボウリングの指導をする機会をつくっている。ユニセフ共同募金にも協力している。 '06年からは史上初めてチャリティオープンボウリングトーナメント「MKチャリティカップ」が開催、'09年からは「フィランスロピー」の大会も加わり、プロボウリング協会としてもチャリティ基金を提供している。

競技	社会貢献活動の内容
ダンス	ブラインドダンスを普及させるために、全国各地で講習会をボランティアで行っている。またワールドシリーズアジアオープン選手権大会の会場で、募金活動を行いユニセフに寄付している。東日本大震災の被災地に、義援金を送っている。
フォーミュラ・カーレース	2012年は復興支援イベントの一環として、宮城県仙台市の小学校3校を訪問。ドライバーとエンジニアが小学校で社会科授業を実施した。また、学生フォーミュラを通じての交流活動も継続して実施。
中央競馬	畜産振興事業、社会福祉事業等に助成している。また中央競馬の馬主は、競馬賞金の一部を原資として自主的に社会福祉事業等に助成している。
地方競馬	各自治体の教育、医療、社会福祉及び畜産振興等に貢献している他、競馬場等の施設を開放して地域との交流促進を図っている。
競輪	機械工業の振興、体育事業その他の公益の増進を目的とする事業に対する補助等を行っている。また、競輪場においては、非開催日に各場ごとに趣向を凝らしたイベントを開催して、地域住民との交流に努めている他、選手による被災地への義援金の提供や、選手と障がい者とのスポーツ交流も自主的に行っている。
ボートレース	各支部単位で動いており、特に歳末は地域の社会福祉関連施設を慰問し、クリスマス会やもちつき会を行うのが恒例となっている。夏期には花火大会を開催し、地域住民と交流を図っている。さらに、毎年海の日（7月第3月曜）には全国でゴムボート大会や水に親しむイベントを開催している。
オートレース	公共施設の拡充や福祉の向上、大震災復興支援、機械工業技術の発展、振興等に貢献している。また、非開催日には地域の祭、イベント等に会場を提供し、選手が積極的に参加する他、警察や消防の訓練等へレース場敷地を貸し出しや走路内を交通安全指導会場として提供するなど地域社会、地域住民との交流を図っている。
キックボクシング	年4~5回、交通遺児の救済団体など、さまざまな社会福祉団体へ興行収益金の一部を寄付。また、「ちびっこキックボクシング教室」を無料で開催し、礼儀作法を教えながら健全な青少年育成に努めている。

表彰制度

◆プロスポーツ団体の表彰制度

古来、スポーツ競技者が表彰という名誉、栄光を目指して研鑽を重ね、極限への挑戦を続けてきたのは明らかだが、現在では「見るスポーツ」としての視点から、単に成績優秀というだけではなく、フェアプレーであったか、マナーはどうか、その競技における貢献度はどうかを選考の条件に加味する団体が増えている。ここでは、プロスポーツ14団体の表彰制度（下記）をはじめ、国家的表彰、ＪＯＣおよび体協による表彰、そして、マスコミ関係の表彰について次のページ以降にまとめた。

競技	主な賞（対象者・選考規定・賞品等）	
相撲	各本場所において優秀力士の他に、三役以下の幕内力士により三賞（殊勲、敢闘、技能）に該当する力士を選出し、表彰している。過去にイレギュラーなケースとして、大寿山、巨砲両力士に対し「10年幕内在位」表彰。大鵬、北の湖、貴乃花に対し「一代年寄」表彰が行われている。	
野球	セントラル・リーグ 優勝チームには、トロフィー(持回り)、ペナントを授与。個人表彰は以下の通り。最優秀選手賞(賞金300万円・記者投票)　最優秀新人賞(賞金100万円・記者投票)　ベストナイン(賞金50万円・記者投票)　最優秀投手賞(賞金100万円・ベストナインの投手)　最優秀防御率投手賞(賞金100万円)　最多勝利投手賞(同)　最多奪三振投手賞(同)　最多セーブ投手賞(同)　最優秀中継ぎ投手賞(同)　首位打者賞(同)　最多安打者賞(同)　最多本塁打者賞(同)　最多打点者賞(同)　最多盗塁者賞(同)　最高出塁率者賞(同)　月間最優秀選手賞(投手と野手各1名・4月~9月)など。その他、規定の記録達成のつど表彰する賞もあり、記念メダルを授与。日本選手権シリーズ優勝チームのオーナー、球団社長・代表、監督に対し、「日本一賞」を顕彰する記念品を授与する。	パシフィック・リーグ 優勝チームには、表彰状、トロフィー、ペナントの授与。個人表彰は以下の通り。最優秀選手賞(賞金300万円・記者投票)　最優秀防御率投手賞(賞金100万円)　最優秀投手賞(13勝以上・賞金100万円)　最多勝利投手賞(賞金100万円)　最多セーブ投手賞(同)　最優秀中継ぎ投手賞(賞金50万円)　最多三振奪取投手賞(賞金100万円)　首位打者賞(同)　最多安打者賞(同)　最多本塁打賞(同)　最多打点賞(同)　最高出塁率賞(同)　最多盗塁賞(同)　最優秀新人賞(同・記者投票)　ベストナイン及びベストDH(賞金50万円・記者投票)　優勝監督賞(賞金100万円)　月間最優秀選手賞(投手と野手各1名・4月~9月)。連盟会長が表彰妥当と認める日本新記録を樹立した選手またはチームに記録賞、規定による記録を樹立した者には記念賞を授与する。
男子ゴルフ PGA	PGA主催競技優勝選手（日本プロゴルフ選手権大会・日本プロゴルフシニア選手権大会・PGAフィランスロピーシニアトーナメント・日本プロゴルフ新人選手権大会・PGAティーチングプロ選手権大会）	
女子ゴルフ	年間最優秀選手賞(年間を通してLPGAツアーで最も顕著な活躍を見せたプレーヤーに与えられる)　新人賞　賞金ランキング第1位　平均ストローク第1位　パーオン率第1位　平均パット数第1位　特別賞　ティーチャー・オブ・ザ・イヤーゴルフビジネス賞　メディア賞［ベストショット］部門　メディア賞［ベストコメント部門］など	
サッカー	最優秀選手賞(賞金200万円と副賞)　ベストイレブン(賞金100万円と副賞)　優秀選手賞(ベストイレブン投票結果を基に、上位から選出。GK部門:4名／フィールドプレーヤー部門:26名、メダル(18K)を贈呈)　ベストヤングプレーヤー賞（1989年4月2日以降に出生した選手の中で上位選者による投票結果を基に選出）賞金50万円と副賞　得点王(賞金100万円と副賞)　優秀新人賞(新人王投票結果を基に上位3名を選出、メダル(18K)を贈呈)　フェアプレー賞(リーグ戦における反則ポイント数が最少のチーム。高円宮杯と賞金500万円)　フェアプレー個人賞(Jリーグで警告・退場数がゼロであり、賞に値する選手。賞金50万円と副賞)　最優秀監督賞(リーグ戦においてチームの発展に最も貢献した監督。賞金100万円と副賞)　最優秀主審賞(海外研修旅行と副賞)　最優秀副審賞(海外研修旅行と副賞)　最優秀ゴール賞（J1リーグ戦全ゴールの中で最も評価の高いゴール。賞金50万円と副賞）	

競技	主な賞（対象者・選考規定・賞品等）	
ボクシング	年間表彰として以下の各々に該当する選手を協会ならびにコミッションから委嘱された記者による投票で選出する。最優秀、技能、殊勲、敢闘、努力、KO、新鋭、特別、最高試合の各賞（賞金なし。スポンサーからの副賞）。	その他、ライターズクラブメンバーで構成される月間賞選考委員会の選考による月間賞（毎月3名)がある。
ボウリング	年間の最優秀選手賞として「ポイントランキング１位」(男女各１名。盾と金一封)、「賞金ランキング１位」(同)、「アベレージランキング１位」(同)。東京運動記者クラブが選定する「最優秀選手賞」(年間成績＋その他の要素で選考。賞状)。その他、	理事会協議により、その年度に特別な功績を残した選手に対して「特別表彰」を行うこともある。
ダンス	毎年新春に、日本ダンス議会主催により「日本プロスポーツダンス大賞」の表彰を行う。大賞（１組）、	優秀選手賞、殊勲選手賞、ショーダンス芸術賞、最優秀新人賞、クラス別躍進賞などがある。
フォーミュラ・カーレース	ドライバーには獲得順位に応じた賞金が支払われる。シリーズドライバーズチャンピオンには、ドライバーズチャンピオンカップ、自由民主党モータースポーツ振興議員連盟杯、観光庁長官杯を授与。 ドライバーズチャンピオン、チャンピオンチームには、シリーズ賞金として各500万円が支払われる。JAFモータースポーツ表彰式において、選手権規定に基づき、上位入賞者には以下の賞典が授与される。	ドライバー部門／選手権者（オリジナル認定トロフィー・副賞）2位～3位（オリジナル認定トロフィー・副賞）4位～6位（表彰状・副賞） エントラント（チーム）部門／選手権者（オリジナル認定トロフィー） メカニック部門／ドライバー選手権者のチーフメカニック（オリジナルトロフィー）
中央競馬	JRA賞として、競走馬の部、調教師・騎手の部、馬事文化貢献の３部門に分けて表彰。競走馬部門：年度代表馬、最優秀２歳牡馬、最優秀２歳牝馬、最優秀３歳牡馬、最優秀３歳牝馬、最優秀４歳以上牡馬、最優秀4歳以上牝馬、最優秀短距離馬、最優秀ダートホース、最優秀障害馬　調教師・騎手部門：最多勝利調教師、最高勝率調教師、最多賞金獲得調教師、優秀技術調教師、最多勝利騎手、最高勝率騎手、最多賞金獲得騎手、最多勝利障害騎手、最多勝利新人騎手　馬事文化に貢献のあった人（団体）：JRA賞馬事文化賞（学識経験者で構成される選考委員会で選出。賞金100万円）	
地方競馬	NARグランプリとして、調教師、騎手及び競走馬の3部門に分けて表彰する。受賞者には賞状及び賞品が授与される。調教師、騎手については、NAR役職者及び学識経験者で構成される調教師・騎手等選定委員会で、競走馬については、有識者等で構成される優秀馬選定委員会で選定される。 競走馬の部：年度代表馬、2歳最優秀牡馬、2歳最優秀牝馬、3歳最優秀牡馬、3歳最優秀牝馬、4歳以上最優秀牝馬、ばんえい最優秀馬、最優秀短距離馬、最優秀ターフ馬、ダートグレード競走特別賞、特別表彰馬 調教師の部：最優秀勝利回数調教師賞、最優秀賞金収得調教師賞、最優秀勝率調教師賞、殊勲調教師賞 騎手の部：最優秀勝利回数騎手賞、最優秀賞金収得騎手賞、最優秀勝率騎手賞、殊勲騎手賞、優秀新人騎手賞、優秀女性騎手賞、ベストフェアプレイ賞 特別賞：地方競馬の発展に顕著な功績があった者	

◆プロスポーツ団体の表彰制度

競技	主な賞（対象者・選考規定・賞品等）
競輪	年間の競走成績が優秀であった者から、最優秀選手賞(あらかじめ行う記者投票の結果等を勘案して4名を選出、そのうち最も優秀であった者1名を表彰選手選考委員会で選考する。賞金と賞状、純金製メダル、チャンピオンブレザー)、優秀選手賞(前記最優秀選手該当1名を除く3名。賞金と賞状、純金製メダル)、優秀新人選手賞(選手登録から3年を越えない者で記者投票の結果等を勘案して表彰選手選考委員会で選考する者1名。賞金と賞状、純金製メダル)、特別敢闘選手賞(年間に実施された特別競輪に於いて優秀な成績であった者の中から1名。記者投票と委員会選考。賞金と賞状、純金製メダル)その他、ガールズ最優秀選手賞及びガールズ優秀選手賞、国際賞、特別賞、各種記録賞がある。
ボートレース	優秀選手表彰に関しては　記者クラブ代表、学識経験者、関係者から構成される優秀選手選考委員会の選出による。最優秀選手(出場回数160回以上で競走成績はもとより総合的に優秀と認められる者1名。賞金200万円)最優秀新人選手(登録された翌年から3年以内で、出場回数160回以上の者1名。賞金50万円)最多賞金獲得選手(1名。賞金50万円)最高勝率選手(1名。賞金50万円)最多勝利選手(1名。賞金50万円)優秀女子選手(1名。賞金50万円)特別賞(最優秀選手に準ずる活躍をした者など1名。賞金50万円)ボートレース記者大賞(記者投票選出1名。賞金50万円)がある。
オートレース	選考委員会の選出による、最優秀選手賞（1名。賞状、クリスタルトロフィー、賞金）、優秀選手賞（3名。同）、最優秀新人選手賞（1名。同）、優秀新人選手賞（1名。同）、その他、特別賞などがある。
キックボクシング	タイトルマッチに勝利した選手には、試合後リング上で表彰式を行い、チャンピオンベルト、認定証、トロフィー、盾を授与する。また、タイトルマッチ以外の試合においても、勝利者にトロフィーを授与する。

主なスポンサー企業・団体

ファンを楽しませるために、観戦だけではなく、今や関連産業を巻き込むビジネスが定着してきている。例えば、Ｊリーグではプロサッカーをビジネスととらえ、リーグの一括処理によるスポンサーシップや放映権料、さらにロゴマークやキャラクター商品により、戦略的な収益構造を確立している。

ここでは、試合の開催そのものに関するスポンサードという視点で、各団体ごとのスポンサー企業・団体をまとめた。なお、公営競技については、各競技がそれぞれ異なった背景をもっているため一覧からは除いている。

競技	主なスポンサー企業・団体
野球	○NPBパートナー（5社） ㈱コナミデジタルエンタテインメント　日本生命保険相互会社　㈱ローソン ジョージア　マツダ㈱
男子ゴルフ PGA	シニア競技 ○コマツ　○富士フイルム ○日本ゴルフ協会　○富士ゼロックス ○TVQ九州放送　○金秀グループ ○ファンケル　○三井不動産 ○スターツコーポレーション　○国際スポーツ振興協会 ○富士フイルムホールディングス その他の競技 ○日清食品ホールディングス　○日立製作所

競技	主なスポンサー企業・団体
女子ゴルフ	○琉球放送(株) ○ダイキン工業(株) ○横浜ゴム(株) ○カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株) ○ヤマハ(株) ○ヤマハ発動機(株) ○(株)スタジオアリス ○読売テレビ ○読売新聞社 ○報知新聞社 ○(株)東急エージェンシー ○(株)熊本県民テレビ ○(株)西陣 ○フジテレビジョン ○(株)テレビ東京 ○(株)博報堂DYメディアパートナーズ ○(株)サイバーエージェント ○日本テレビ放送網(株) ○久光製薬(株) ○RKB毎日放送(株) ○フンドーキン醤油(株) ○中京テレビ放送(株) ○ブリヂストンスポーツ(株) ○ヨネックス(株) ○リゾートトラスト(株) ○(株)静岡朝日テレビ ○サントリーホールディングス(株) ○関西テレビ放送(株) ○(株)ニチレイ ○アース製薬(株) ○日医工(株) ○スタンレー電気(株) ○(株)サマンサタバサジャパンリミテッド ○北海道文化放送(株) ○(株)北海道新聞社 ○(株)道新スポーツ ○明治ホールディングス(株) ○NECグループ ○キャタピラージャパン(株) ○(株)ニトリ ○(株)アルペン ○コニカミノルタホールディングス(株) ○東海テレビ放送(株) ○(株)デサント ○(株)宮城テレビ放送 ○住友ゴム工業(株) ○富士通(株) ○(株)スポーツニッポン新聞社 ○延田グループ ○IMG ○森永製菓(株) ○(株)毎日放送 ○ミズノ(株) ○(株)伊藤園 ○大王製紙(株) ○(株)リコー ○(株)エディオン ○全日本空輸(株) ○カストロール(株) ○(株)山陽新聞社 ○(株)山陰合同銀行 ○ルートインジャパン(株) ○(株)中国新聞社 ○加賀電子(株) ○(株)ふくや
サッカー	Jリーグトップパートナー ○カルビー㈱ ○キヤノン㈱・キヤノンマーケティングジャパン㈱ ○㈱コナミデジタルエンタテインメント ○㈱アイデム ○日本コカ・コーラ㈱ ○東京エレクトロン㈱ ○日本マクドナルド㈱ Jリーグ百年構想パートナー ○朝日新聞社 Jリーグフェアプレーパートナー ○東京エレクトロン㈱ リーグカップスポンサー ○ヤマザキナビスコ㈱ スーパーカップスポンサー ○富士ゼロックス㈱ Jリーグオフィシャルエクイップメントパートナー ○アディダス ジャパン㈱ ○㈱モルテン Jリーグオフィシャルサプライヤー ○ジョンソン・エンド・ジョンソン㈱ ビジョンケアカンパニー Jリーグオフィシャルブロードキャスティングパートナー ○スカパーJSAT㈱ スポーツ振興パートナー ○独立行政法人日本スポーツ振興センター Jリーグオフィシャルチケッティングパートナー ○ぴあ㈱ 90°システム広告スポンサー ○日本コカ・コーラ㈱ ユニフォームサプライヤー ○㈱アシックス〈アシックス〉 ○アディダスジャパン㈱〈アディダス〉 ○㈱ウインスポーツ〈PENALTY〉 ○㈱エスエスケイ〈ヒュンメル〉 ○㈱カレッジリーグ〈エーライン〉 ○㈱ゴールドウイン〈ゴールドウイン〉 ○㈱デサント〈アンブロ、ルコック スポルティフ〉 ○㈱ドーム〈アンダーアーマー〉 ○㈱ナイキジャパン〈ナイキ〉 ○プーマジャパン㈱〈プーマ〉 ○㈱フェニックス〈Kappa〉 ○㈱ボリューム〈スボルメ〉 ○㈱マイノリティー〈エネーレ〉 ○ミズノ㈱〈ミズノ〉 ○ヨネックス㈱〈YONEX〉 ○㈱ロイヤル〈マイター〉 ○㈱ワコール〈CW-X〉

◆主なスポンサー企業・団体

競技	主なスポンサー企業・団体
ボクシング	○ウイニング ○ミズノ ○アシックス ○ロッテリア
ボウリング	○公益社団法人日本ボウリング場協会 ○東海ボウリング場協会 ○MK㈱ ○宮崎エースレーン ○㈱グランド六甲 ○㈱アメリカンボウリングサービス ○関東ボウリング場協会 ○田町ハイレーン ○JFE（京葉シティーサービス㈱） ○利根コカ･コーラボトリング㈱ ○関西ボウリング場協会 ○千葉県ボウリング場協会 ○㈱ラウンドワン ○品川プリンスホテル ○サンブリッジグループ ○国際スポーツ振興協会（ISPS） ○㈱スポルト ○㈱グランドボウル
フォーミュラ・カーレース	シリーズ協賛社 ○本田技研工業(株)（シリーズパートナー） ○トヨタ自動車(株)（シリーズパートナー） ○(株)ブリヂストン（シリーズサポーター） ○人気酒造(株)（プロモーションパートナー） 主なチームスポンサー ○(株)NTTドコモ ○日本サン石油(株) ○キグナス石油(株) ○PETRONAS ○(株)デンソー ○日本ヒューレットパッカード(株)

付 スポーツ関連団体連絡先一覧 ’13年プロスポーツスケジュール